

碧南市が変わる 6月議会 議案発表

18歳まで通院費無料 10月から予定

子どもたちへ「大切にしているよ」のメッセージ

遅れた子育て施策の碧南市から脱却し、大きな一歩が踏み出されます。子育て世代や、子どもたちに「みんな、ささえ大切にしてるよ」のメッセージを添えて、18歳までの通院費無料化の制度が届くことを願います。

西三河10自治体で最低の合計特殊出生率の碧南市。子育てしやすい碧南市に向け日本共産党は、さらに学校給食無償化、小中体育館の空調設置など、6月議会ががんばります。

医療機関の窓口で「現物給付」

現在、碧南市では18歳までの入院費だけ無料にしています。そのために一旦医療機関の窓口で自己負担を支払い、市役所で補助金をもらう「償還払い」となっています。

10月からは、医療機関の窓口で無料になる「現物給付」となり「層便利になります」。

今年約2000万円

議案では、10月からの実施でも、市が医療費を支払うのは12月からということ。12月から来年3月までの4カ月分、約2000万円の予算が提案されています。

6/4 議会運営委員会の資料で

4月21日投開票の市長選挙で、小池友妃子市長が誕生して1ヶ月余がたちました。実質の初議会となる、6月議会は市長公約がどう出されるか注目されています。

6月4日の議会運営委員会、1週間前の5月29日、各議員に議案が公示されました。ここに条例改正と補正予算案に、18歳までの医療通院費の無料化を、今年10月から実施する議案ことが示されました。

武豊町の小学校体育館空調設備左右に各8機16機がついています。



一番奥が小池市長 5/27市役所

ごみ焼却場民営化はリセットを 小池友妃子市長と市民の会が懇談

契約期間一年＝2024年6月2日

5月27日、「碧南・高浜のごみ焼却施設を考える市民の会」はごみ焼却場について小池友妃子市長と懇談。禰宜田前市長の、中部電力との「資源循環事業等の検討に関する連携協定」の第9条には、有効期間として「締結から1年とする」とされており、6月2日が近づく中、小池市長の考えを聞かせたいと懇談しました。

1年間一度も議会報告なし＝何も決まっていない(部課長)

小池市長は「議員の時も、何も知らされていなかった。今も状況はわからない」とされました。担当部課長は「協議なので何も決まっていない」と弁明しました。この1年間、議会にも市民にも経過や中間報告は1度も行わず、日本共産党の情報公開での情報取得と、一般質問の答弁でしか知らされて来ませんでした。

中電がらみの民営化はリセット、白紙撤回を

市長が「渡りに舟」と中電の産業廃棄物焼却所を「誘致」するかのよう、市が用地確保に走り回り「とん挫」。

禰宜田前市長が落選した今、真の「資源循環」を進めるためにも「燃やせ燃やせ」の泥舟を、改めリセット、白紙撤回するのがスジです。衣浦衛生組合は6月末までの納期で「計画見直し」の委託を進めています。

現況、日/190tの焼却施設を日/124tまで縮小し、さらに削減を目指すものです。2030年CO2 46%減、2050年100%減に向け、ふさわしい施設とゼロをめざすごみ減量施策を行政と市民が協力して実現するためには、公設焼却施設は必須です。中電は石炭火力発電所の廃止こそ進めるべきです。産廃も燃焼から分別へは世界の常識!!!

市民そっちのけの計画 だまっていますか？

2023.6.2	午前10時	連携協定の締結
2023.6.2	午後1時30分	市議会協議会に報告
中部電力からの提案		
①敷地	4ヘクタール程 場所未定	
②焼却する廃棄物	1日/一般廃棄物140トン	
混合処理	1日/産業廃棄物60トン	
③メタン発酵 複合施設	1日/200トンのうち56トン分をメタン発酵処理が可能	
④し尿処理	メタン発酵が可能か確認中	
⑤バイオマス発電	ゴミ焼却、メタン発酵の発電	
⑥現行の衣浦衛生組合の存亡	未定	
⑦サンビレッジ風呂プールの存亡	未定	
⑧リサイクルプラザの存亡	未定	
⑨し尿処理施設の存亡	未定	

石炭+バイオマス=同じコンベアーで搬送 はしご車で届かない施設は燃え落ちるしかない?!

1人1問、撮影禁止

ことし1月、愛知県武豊町の火力発電所で発生した火災から4ヶ月。JERAはようやく住民説明会を開催しました。会場は、約90人の社員。正面には所長、副所長、技術部長、統括部長が鎮座し、場面場面で、「斉に深くお辞儀をするテレビでおなじみの、謝罪」場面を繰り返しました。しかし、会場からの質問は1人1問、写真も禁止というものでした。参加者は120名、時間が足らなくなるほどの質問が続きました。

「市民の会」の23項目の質問は無視

武豊の環境問題を考える会「事務局長大久保崇さんは、23項目の質問を作成し回答を求めています。しかしJERAはこれを無視しました。

いいのかわからの散水装置

爆発後、火がコンベアーに燃え広がりました。碧南石炭火力発電所では、コンベアー火災が繰り返され、消防署からスプリンクラーの設置を指導。効果が見られていません。しかし武豊ではコンベアーの下からの散水で、火の方が早かったと。半田消防署も、はしご車が届かないので、燃え落ちるのを待つしかない、してきたとJERAは答えました。

石炭とバイオ同じコンベアーでの無理

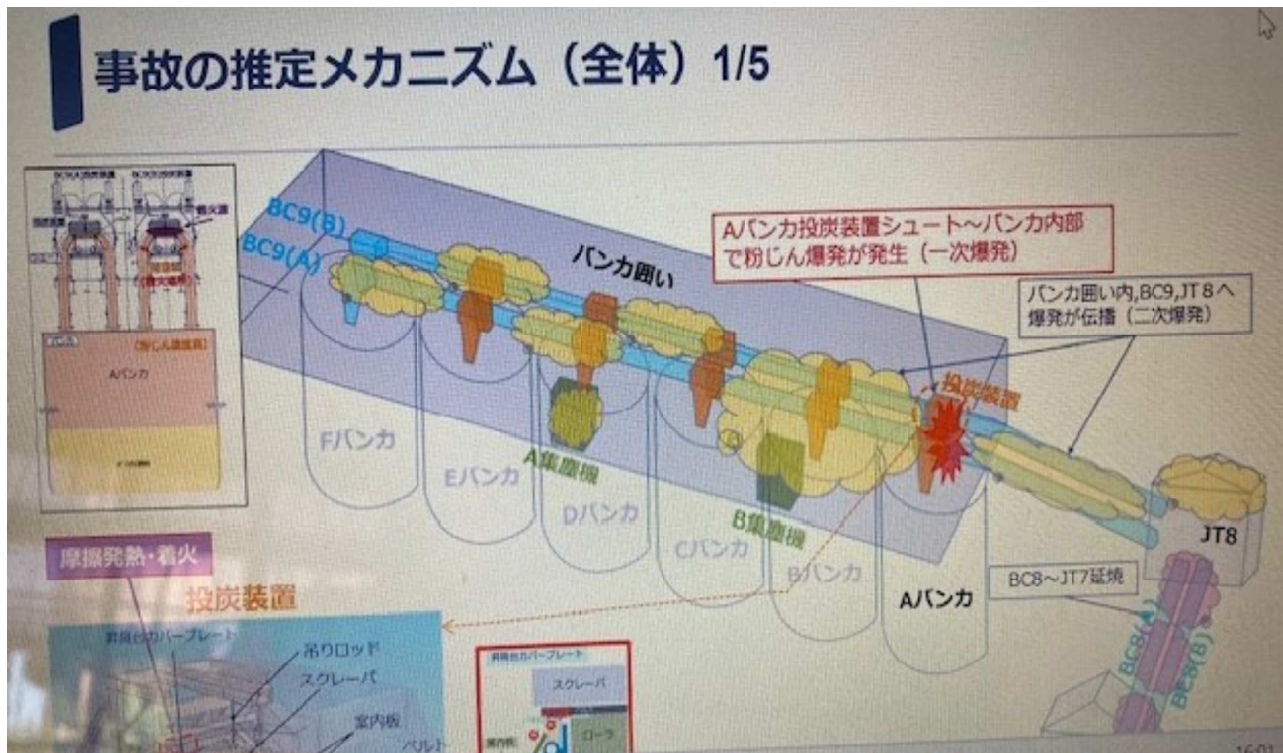
武豊火力は2017年に、石油原料から、石炭専焼でリプレースを計画。しかし環境省からCO2問題で懸念を指摘されました。急きよバイオマス混焼に変更したものです。

しかし、設備の変更が追いつかず、同じコンベアーを機械的に持ち上げてバイオのONt.O.F.Fを切り替えるものとなりました。それ自体が、摩擦が起きる構造であり、今回この部分で爆発が起きました。JERAは、大量のバイオマス燃料を運搬する際に生じた粉じんが設備の摩擦による熱で着火したことなどが原因だった」と発表

しています。

稼働なしでも電気はある 石炭発電廃止を

武豊火力発電所「で爆発音とともに火災が発生し、けが人はいなかったものの発電所は現在も稼働を停止しています。バイオマス燃料の、木質ペレットを一時的に貯蔵する設備の上部で発生。大量の、木質ペレット」をベルトコンベアーによって高速で運搬したことで多くの粉じんが発生し、



それにベルトの摩擦による熱で着火したことなどが火災の原因としています。

JERAは、来月末をめどに再発防止策をまとめるとしています。現時点で発電所の復旧の見通しは立っていないということです。

一方、東海地方などで送配電を行っている中部電力パワーグリッドによりますと、武豊火力発電所「が停止している状況でも今のところ、管内の電力の安定供給に支障はないとしています。

107万kWで54%の稼働率のこの武豊発電所は、無しでもやっているといることとす。

再稼働のためには、根本的な施設改善が必要です。国もバイオマス火災、爆発が相次ぐ中、対策強化に乗り出しています。厄介な、バイオや石炭に固執し「石炭火力発電所」の廃止を訴える世界の世論に背を向けることは、許されません。廃止の決断を下し、再エネ省エネに転換すべきです。

大軍拡・増税許すな

へきなん 19 行動

6月19日(水曜日)午前11時~12時

ピアゴ碧南東店
碧南市東浦町6-17 (日進小学校南)



<http://hekinan.jcpweb.net/>
日本共産党碧南市議員団のホームページをご覧ください。

日本共産党碧南市議団



市議会議員
山口はるみ
☎42-8940
三度山町 2-70-4



市議会議員
磯貝明彦
☎48-2718
若松町 3-253